

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370915

研究課題名(和文) 長久保赤水の地図作製プロセスに関する研究

研究課題名(英文) A Study on Sekisui NAGAKUBO's Map Making Process

研究代表者

小野寺 淳 (Onodera, Atsushi)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：90204263

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：長久保赤水のご子孫宅から、新たな資料を約279点見出すことができた。科研メンバーならびに高萩市役所、長久保赤水顕彰会のご協力により、これらの資料整理と目録作成を完成させた。とりわけ、漢籍には赤水自筆の書き込みがあり、これらの解読を行った。また、赤水は同じ刊記の地図でも、何度も修正を施していたことが明らかになった。さらに赤水が地図作製に参考とした漢籍や地図の特定が進み、これらの資料と赤水作製地図における細部の異同を一部分析することができた。これらの新たな資料をさらに分析することによって、長久保赤水の地図作製過程を明確にしていくことができる。

研究成果の概要(英文)：Roughly sketched maps and Chinese books, in total 279, were found from Sekisui NAGAKUBO's descendant house. These maps and books were packaged on neutralized paper envelopes to preserve by KAKENHI members and a Takahagi City employee. And those were listed by a citizen. Sekisui's memoranda in red ink on Chinese books were read. It became clear that Sekisui modified information on his map several times. Furthermore, Refereed maps and books were identified, though a part of it. We need time to make clear Sekisui NAGAKUBO's map making process using those maps and books that were found in this research.

研究分野：歴史地理学

キーワード：長久保赤水 改正日本輿地路程全図 古川古松軒 木村蒹葭堂 漢籍 大清廣輿図 地球萬国山海輿地全図説

1. 研究開始当初の背景

地図製作者長久保赤水を最初に評価したのは作家住井すゑ(1978 復刻)とされ、第二次世界大戦中に日本地理学の先駆者として紹介されたが、実際は前田香径の著であった(前田均,2001)。1934年には杉田雨人『長久保赤水』が刊行された。その後、昭和30年代後半の地図史研究の進展の中で、赤水は再び注目されていく。たとえば、地図史研究の第一人者である海野一隆は1962年に赤水の中国図、1968年には日本図に関する論考を著わした。さらに秋岡武次郎、石田竜次郎、中村拓、室賀信夫といった当時著名な地理学者らも、赤水が作製・刊行した地図は江戸時代中期から幕末まで刊行され、最も普及した地図として長久保赤水を高く評価(雑誌「地理」13巻、1968に連載)し、「改正日本輿地路程全図」は「赤水図」と称されている。その後も赤水図は、『日本古地図大成』などに収録され、神戸市立博物館や国立歴史民俗博物館所蔵の秋岡コレクション所蔵の古地図の展示や紹介、さらに全国各地の博物館で展示されており、石川流宣の「流宣図」とともに広く知られるようになった。近年では、明治大学図書館所蔵蘆田文庫所収の赤水の世界図(平野満,2000)に関する論考も発表された。

こうした動きの中で、馬場章(2001)は5版刊行された「改正日本輿地路程全図」のうち2版まで赤水が関わったこと、各版の地名などを詳細に比較し、さらには当時に西欧における赤水図の評価を明らかにする画期的な論考を著わした。続いて上杉和央(2010)は、豊田智美とともに高萩市指定文化財となった長久保赤水資料(長久保赤水顕彰会収集ならびに子孫宅で確認された370点の史料群)の中から、「改正日本輿地路程全図」の原図と考えられている1768年「改製扶桑分里図」、「橘守国図」などの原本調査を実施し、書簡などから赤水の日本図作製過程に関する基礎的調査を行った。

このような「赤水図」に関する研究の一方で、長久保家の親族である長久保光明(1970,1984、『地図史通論 1992, 暁印書館』)、長久保片雲編著『地政学者長久保赤水伝』(1978, 暁印書館)、長久保片雲『長久保赤水の交遊』(2011, PoemiX)が、赤水の生涯と交遊、ならびに地図について史料をもとに詳細に紹介している。さらに、茨城県の先人として広く副読本などでも紹介されるようになった。この背景には、茨城県高萩市において高萩郷土史研究会、長久保赤水顕彰会が組織され、横山功らによる長久保赤水書簡集(2004,2012,2014,2016)の刊行、佐川春久らによる活発な普及活動が展開されており、また自治体

の支援の成果ともいえる。

代表者の小野寺は2000年頃から長久保赤水の刊行図のもとになったと考えられる手書き図に着目してきたが、手書き図と刊行図との関係を明確にする資料が見出せないまま、成果をまとめることができなかった。ところが、2012年、長久保赤水顕彰会が古書店から購入した史料群(赤水新出史料群,196点)が、この問題を解決するのにきわめて有益であることがわかった。高萩市で閲覧した結果、この史料群は、おそらくこれまで資料の所在が不明であった長久保家の分家で、小野矢指村庄屋を勤めた家に所蔵されていたものと推測し、また、ある古文書収集家の史料のなかに小野矢指村庄屋を勤めた長久保家分家の史料があることも確認できた。

以上の経緯で、これまで多くの地図史研究者が十分に解明することができなかった長久保赤水の地図作製のプロセスを明らかにすることが可能な状況になった。

2. 研究の目的

長久保赤水(1717 - 1801)は、「改正日本輿地路程全図」、「唐土歴代州郡沿革地図」、「大清廣輿図」、「地球万国山海輿地全図説」などを作成・刊行し、国内はもとより、シーボルトなどを通して海外でも知られた江戸時代中期を代表する地図製作者である。現在の茨城県高萩市赤浜に生まれ、農業の傍ら越越南溪(後に水戸彰考館総裁)らに師事、儒学や天文学を修めて郷土に取り立てられると藩主徳川治保の侍講、さらに、「大日本史 地理志」編纂にも従事した。1767年、漂流民引取りの任で長崎に赴いた「長崎行役日記」など、紀行文の著者としても知られる。なかでも、「改正日本輿地路程全図」は幕末まで5版も重ね、当時もっとも普及した日本図である。ただし、長久保赤水は伊能忠敬のように測量による地図製作者ではなく、多くの文献・史資料をもとに日本図、世界図、中国図を作製したと考えられているが、その作製プロセスは十分に解明されていない。そこで本研究は、長久保赤水がいかなる文献・史資料をもとに、どのような人々と交流し、どのようにマクロスケールの地図を作製したのか、地図作製のプロセス、すなわち長久保赤水の地図学の全貌を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 赤水図の典拠となった文献・史資料の分析

長久保赤水に関する史料は、本家・分家(小野矢指の分家を除く)所蔵史料と

長久保赤水顕彰会蔵史料である高萩市指定文化財 370 点、並びに分家の小野矢指村庄屋旧蔵と思われる赤水新出史料群 (196 点) である。本研究は、高萩市指定文化財 370 点と赤水新出史料群 196 点、計 566 点の史資料の解読を中心とする。

(2) 長久保赤水の地図製作に関する交流関係の解明

上杉和央、長久保片雲によって指摘されているように、長久保赤水是多くの知識人と交流しており、とくに赤水の地図製作に影響を与えた高山彦九郎、古川古松軒、木村蒹葭堂、森幸安(上杉調査済)、オランダ通詩高尾嘉左衛門・神代有隣などの地図製作上の交遊関係を明らかにする必要がある。このため、「高山彦九郎交遊録」などを所蔵する群馬県の太田市立高山彦九郎記念館で資料収集、また漂流者引取りで赴いた長崎県立図書館で資料収集を行う。さらに、国立公文書館所蔵の木村蒹葭堂の資料収集、岡山県立博物館所蔵の古川古松軒の資料収集を行う。

4. 研究成果

初年度は、566 点の史料の解読を行うとともに、ご子孫宅の蔵などを整理させていただき、新たに近世の風土記や漢籍、さらに近世文書を見出すことができた。この結果、2016 年度末には 916 点が高萩市指定文化財となる。これらのうち、歴史資料としての価値がより高い 693 点が選択され、2017 年 1 月に茨城県指定文化財「長久保赤水関係資料」となった。本研究の 3 年間に於いて、高萩市教育委員会生涯学習課、ならびに長久保赤水顕彰会の方々の尽力を得て、これら新出史料の整理、写真撮影、目録作成をほぼ完了することができた。近世文書は千葉真由美の指導のもと茨城大学教育学部日本史研究室の院生・学部生が整理を行い、また新出の地図などの原本調査、撮影は地理学教室の大学院生であった石井智子、永山未沙希、岩間絹世が主に担当した。

新出史料の整理と同時に、科研メンバーの野積正吉、渡辺理絵、尾崎久美子は主に漢籍に記載された赤水自筆の朱筆の解読を行った。増子和男はご子孫宅に残された漢籍の種類を整理し、これらの考察を行う。上杉和央と島本多敬は神戸市立博物館などで赤水図の原本調査と撮影を行っている。小野寺淳と石井智子、岩間絹世、永山未沙希は長崎県立図書館、太田市立高山彦九郎記念館において文献ならびに情報収集、さらに科研メンバーは岡山県立博物館で古川古松軒作製地図の原本調査と写真撮影、愛媛大学附属図書館、国立公文書館、国立国会図書

館、名古屋大学附属図書館等、明治大学図書館蘆田文庫において赤水の日本図、中国図、世界図の原本調査と撮影を実施した。以上の史料整理と調査の結果、歴史地理学会、日本地理学会、人文地理学会ならびに古地図研究者が会員の国絵図研究会で学会発表を行い、さらに茨城県内で講演を行って研究成果の還元に努めた。

具体的な研究は、今後さらに深めていく予定であるが、以下、調査期間中で得た主な研究成果を記す。

日本図に関する知見

赤水生存中に刊行された「改正日本輿地路程全図」は安永 8 年板と寛政 3 年板である。寛政版には航路の表現が追加されており、航路の有無が安永板と寛政板の大きな違いである。今回の調査で原本調査を実施した安永 8 年板 24 鋪と寛政 3 年板 17 鋪について、永山未沙希はそれぞれ表現の差異を具体的に比較検討し、異板の数を確定した上で、安永板と寛政板の異板の刊行順序について推定した。この結果、埋木による修正か、板の変更かは判然としないが、少なくとも安永板が 12 グループ、寛政板が 3 グループあることが明らかになった。さらに本研究で対象とした 916 点の赤水関係史料の中から、少なくとも 20 点の手書き図、書簡などが改正日本輿地路程全図の表現との近似性がみられ、これら 20 点は赤水の改正日本輿地路程全図作製過程に何らかの影響を与えた可能性があることも明らかになった。改正日本輿地路程全図刊行後も、赤水是古川古松軒や川村寿庵らから新たな情報を入手すると変更を加え続けたことが実証できた。

中国図に関する知見

「唐土歴代州郡沿革地図」の手書図が本史料群に含まれる。研究上、細部においては不明な点があるものの、海野一隆 (1962, 1968, 2005)、周振鶴・鶴間和幸 (1993) の先行研究で示されたように、赤水が多くの漢籍を参照して中国図を作製した事実は明白である。実際、子孫宅旧蔵から古書店を経由して 12 種の漢籍が見出され、このうち『春秋左傳』『大学』『書経』(巻之二、三、五、六)『詩経』(巻之四、五)『周易』『天経惑問』『漢書評林』『世話新語補』『両国譯通』9 種には、赤水自筆の朱筆文字が書き加えられている。漢籍に記された赤水の書き込みについて、赤水が作製した「大清廣輿図」および「唐土歴代州郡沿革地図」の中国図との関係の検討を始めたところである。

「大清廣輿図」は、省ごとに板木を作製しており、省内でも板木を分けているため、全体で 23 の板木を使用していたことが判明した。また、省ごとに紙継ぎ

をするため、料紙裏に「東北浙福建界」といった目印を板木で刷っており、これは16箇所見られた。

世界図に関する知見

「地球萬国山海輿地全図説」は、天明5(1785)年作製説と寛政7(1795)年ころとの説がある。いずれにしても当初は無刊記で発行され、板元の記載も無く、現在この初版の無刊記版は神戸市立博物館、国立歴史民俗博物館、長久保和良家(子孫の一家)本の3舗が確認されている。本図は、マテオ・リッチの「坤輿萬国全図」そして原目貞清の享保5年「輿地図」の系統とされ、赤水のオリジナルではあるものの、参照した世界図が古典的とされてきた。これに対して、金田章裕と上杉和央は、むしろ板元の浅野弥兵衛から持ちかけられて出版したのではないかと指摘している(金田・上杉, 2012)。また青山宏夫(2013)は、赤水の世界図が刊行され続けた理由として、水戸徳川家儒学者であった長久保赤水が正統的な知の継承者と評価されていたことによるとの見解を示している。

今回の調査では、原目貞清「輿地図」の朱書きと長久保和良家所蔵「地球萬国山海輿地全図説」の比較を行った。この結果、「輿地図」では「不耕地」「河套」の間に「朔方」と朱書きするが、和良本では「不耕地」「河套」「朔方」の順になり、北極圏の島は5から4、地中海の島が3から2に減少するなど、赤水は「輿地図」の中から取捨選択を行い、自ら地名などを新たに加えていたことが明らかになった。

<文献>

- 青山宏夫 2013. マテオ=リッチ世界図と近世日本. 人文地理学会特別発表 12-15.
- 上杉和央・豊田智美「長久保赤水旧所蔵資料についての検討 赤水日本図の作製過程の解明に向けて」国土地理協会, 2010年, 1-22頁.
- 海野一隆「長久保赤水のシナ図」人文地理 143, 1962年, 221-236頁.
- 海野一隆「赤水のシナ図をめぐって」地理 13-1, 1968年, 92-97頁.
- 海野一隆「長久保赤水のシナ図およびその反響」『東洋地理学史研究 日本篇』清文堂, 2005年, 522-548頁.
- 金田章裕・上杉和央『日本地図史』吉川弘文館, 2012, 380頁.
- 周振鶴・鶴間和幸「長久保赤水と中国歴史地図の編纂」五浦論叢(茨城大学)1, 1993年, 32-53頁.
- 住井す系『長久保赤水 - 日本地理学の先駆 - 』上・下巻, 筑波書林, 1978 復刻, 114頁・106頁.
- 住井す系(前田香径)『長久保赤水 - 日本地理学の先駆 - 』上・下巻, 筑波書林, 1978, 114頁・106頁.

- 高萩郷土史研究会編『続長久保赤水書簡集 現代語訳』長久保赤水顕彰会, 2014年, 149頁.
- 高萩郷土史研究会編『長久保赤水書簡集 付芻蕘談 現代語訳』長久保赤水顕彰会, 2016年, 169頁.
- 長久保片雲『地政学者長久保赤水伝』暁印書館, 1978, 457頁.
- 長久保光明「長久保赤水の日本地図編集のあらまし」歴史地理学 127, 1984年, 25-35頁.『地図史通論 - 談義と論評』暁印書館, 1992年所収.
- 長久保光明「長久保赤水の日本地図編集の概況」日本歴史 269, 1970年, 20-30頁.
- 長久保片雲『長久保赤水の交遊』Poemix, 2011年, 286頁.
- 中村拓「赤水図の欧州における評価」地理 13(1), 1968年, 85-91頁.
- 馬場章「地図の書誌学 長久保赤水「改正日本輿地路程全図」の場合」. 黒田日出男ほか編『地図と絵図の政治文化史』東京大学出版会, 2001年, 383-430頁.
- 平野満「長久保赤水の世界図板行の経緯 - 赤水書簡(太刀川左四郎宛)と本屋仲間記録を手掛かりに -」明治大学人文科学研究所紀要 47, 2000年, 379-387頁.
- 前田均「資料紹介住井す系著『日本地理学の先駆長久保赤水』戦中版・戦後版の比較」天理大学学报 53, 2001年, 123-139頁. 杉田雨人『長久保赤水』杉田恭助, 1934年, 282頁.
- 横山功編著『長久保赤水書簡集』茨城新聞社出版局, 2004年, 199頁.
- 横山功編著『続長久保赤水書簡集』(有)川田プリント, 2012年, 297頁.

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0件)

[学会発表](計 11件)

岩間絹世・永山未沙希・小橋雄毅・小野寺淳, 『長久保赤水「地球萬国山海輿地全図説」の検討』, 日本地理学会春季学術大会, 2017.3.28~29, 筑波大学(茨城県・つくば市)

永山未沙希, 『長久保赤水作製「改正日本輿地路程全図」について』, 国絵図研究会第41回大会, 2017.3.7, 伊賀市上野図書館(三重県・伊賀市)

小野寺淳, 『地図史における長久保赤水作製地図の評価』, 茨城県測量協会「第3回県民測量講座」(招待講演), 2017.2.14, 茨城県立県民文化センター(茨城県・水戸市)

小野寺淳・増子和男・野積正吉・渡辺理絵・尾崎久美子・上杉和央・千葉真由美・島本多敬・石井智子・永山未沙希,『長久保赤水作製中国図に関わる漢籍』,人文地理学会大会, 2016.11.12~13, 京都大学(京都府・左京区)

小野寺淳,『長久保赤水の地図作製プロセス-2年間の調査結果をもとに-』,長久保赤水顕彰会総会(招待講演),2016.5.22, 高萩市文化会館(茨城県・高萩市)

永山未沙希・小野寺淳,『長久保赤水の地図作製過程-古川古松軒と高山彦九郎との関係を中心に-』,歴地理学会第242回例会, 2016.2.27, 日本大学文理学部(東京都・世田谷区)

小野寺淳・増子和男・上杉和央・野積正吉・千葉真由美・石井智子・岩間絹世・永山未沙希,『長久保赤水の地図作製過程-新出史料の伝来を中心に-』,2015年日本地理学会秋季学術大会,2015.9.18~20, 愛媛大学(愛媛県・松山市)

佐川春久,『長久保赤水関係の地図と史料について』,国絵図研究会,2014.9.13, 高萩市中央公民館(茨城県・高萩市)

上杉和央,『幸安と赤水-長久保赤水資料にみる-』,国絵図研究会,2014.9.13, 高萩市中央公民館(茨城県・高萩市)

石井智子,『正保常陸国絵図の編集図-長久保赤水・小宮山楓軒・鷹見泉石との関係を中心に-』,国絵図研究会,2014.9.13, 高萩市中央公民館(茨城県・高萩市)

石井智子,『正保常陸国絵図の編集図-原本調査に基づく表現内容の検討-』,歴史地理学会第58回大会,2014.5.18, 長崎外国語大学(長崎県・長崎市)

〔図書〕(計 1)

上杉和央,筑摩書房,『地図から読む江戸時代』,2015, 234 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野寺 淳 (ONODERA ATSUSHI)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号: 90204263

(2) 研究分担者

増子 和男 (MASUKO KAZUO)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号: 40238902

渡辺 理絵 (WATANABE RIE)
山形大学・農学部・准教授

研究者番号: 50601390

上杉 和央 (UESUGI KAZUHIRO)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号: 70379030

(4) 研究協力者

佐川春久 (SAGAWA HARUHISA)
長久保赤水顕彰会・会長

千葉 真由美 (CHIBA MAYUMI)
茨城大学・教育学部・准教授

野積 正吉 (NOZUMI MASAYOSHI)
射水市新湊博物館・主任学芸員

尾崎 久美子 (OZAKI KUMIKO)
大洗町立幕末と明治の博物館・学芸員

島本多敬 (SHIMAMOTO KAZUYUKI)
京都府立大学大学院・文学研究科・院生

石井 智子 (ISHII TOKMOKO)
茨城大学大学院・教育学研究科・院生
(現在, 茨城県立鉾田第一高等学校・教諭)

岩間 絹世 (IWAMA KINUYO)
茨城大学大学院・教育学研究科・院生
(現在, 茨城県立三和高等学校・教諭)

永山 未沙希 (NAGAYAMA MISAKI)
茨城大学大学院・教育学研究科・院生
(現在, 神戸市立博物館・学芸員)